

令和3年度地域包括ケアに携わる多職種合同研修会

～「顔の見える関係」から「多職種協働」、そして「チーム北空知」へ～

第1回 ケアカフェきたそらち 開催結果・評価

項目	内容
1 目的	北空知における地域包括ケアシステムの構築を目指して、地域の保健・医療・介護・福祉の関係機関・施設・事業所等において、患者や利用者、地域住民の支援に携わる多職種の関係職員が一堂に会することが困難な状況にあっても、互いの役割を確認・共有し、切れ目のない支援・サービスが提供される多職種連携の関係作りを構築する。
2 期待する効果・成果	○地域支援関係者、医療関係者等の多職種が情報交換・共有する関係性と環境が構築される ○多職種の交流の場を運営する組織ができる
3 日時	令和3年9月17日(金)18:00～19:50
4 場所	オンライン開催(ZOOM)
5 内容	(1)話題提供 「お薬の話」 話題提供者 北海道薬剤師会北空知支部深川部会 中澤肇子氏 (2)グループワーク テーマ「薬」 カフェマスター 深川市立病院作業療法士 永洞政幸氏
6 出席者	医師1名、歯科医師2名、薬剤師3名、看護職8名、介護支援専門員5名、社会福祉士2名、保健師6名、リハビリ職1名、歯科衛生士2名、介護福祉士4名、ヘルパー1名、事務職5名、その他2名 合計 42名
7 結果	(1)話題提供内容 ○薬の基礎知識(薬は水で飲むこと、薬を飲む時間、薬と飲食物の飲み合わせ、薬の効き目)について、資料をもとに説明があった。 ○飲み忘れを防ぐために食後服用が多いこと等の説明から、服用時間の理由を知ることができた。また、一般的な緑茶・ウーロン茶はお薬の効果にほとんど影響がないことや、スポーツドリンクや乳酸菌飲料はお薬に施されたコーティングが溶けて非常に飲みにくくなる等の説明から、間違った食べ合わせや飲み合わせに気づく機会となった。 (2)グループワーク ○各 Chat はランダムに10グループ編成され、1グループ4～5人。 (ホストとカフェマスターの2名を除いてグループ編成) ○カフェ・マスターから「ケアカフェ」と、自己紹介の内容(氏名・所属・職種・コロナが落ち着いたらやりたいこと)について説明があった後に Chat1が開始され、休憩を挟んで Chat2、全体会へと進行された。 ○各 Chat の開催時間が設定され、時間になったら全体へ戻ることから、集合研修時に見られる「話し足りず、なかなか終わらない」という状況はなく、時間通りに進行がされた。 ○オンラインで話すことや、端末の操作に苦戦する等、慣れない様子も見られたが、高齢者を支援する中で見られる「薬に関する現状」について意見交換をすることができた。 内容は、「病院別にお薬手帳を持っている」「驚くほど薬が余っていることがある」等の課題や、「お薬手帳カバーにケアマネの名刺が入っていて、薬局とケアマネが情報交換している」という連携の実践紹介もあった。 ○カフェ・マスターの説明と全体会でのまとめがわかりやすく、進行もスムーズであった。

【小部会で振り返り】

○：達成できた △：ほぼ達成・まあまあ良かったが課題あり ×：達成できていない・良くなかった

項目	内 容	
8 評 価	企 画	<p>○地域の多職種連携の課題に即した企画だったか →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークでは「お薬手帳カバーにケアマネの名刺が入っていて、薬局とケアマネが情報交換している」という連携の実践紹介があり、またアンケートから「普段聞くことのできないお話を聞けて今後の仕事に役立てたい」「薬以外の情報交換ができた」等の記載があり、多職種連携を図るためのきっかけ作りになる企画となっている。 <p>○テーマの選定 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬は、管理などを含めて高齢者に多く見られる課題であることから、適切であった。 <p>○周知方法 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修開催の約1ヶ月前に、113カ所の医療介護福祉関係機関・事業所へ郵送。また、協議会構成員へメールで送付された。 ・各所属でチラシを回覧するなど、参加勧奨を行った。 <p>○会場の状況 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開始前からカフェ風の背景設定とBGMが流れ、雰囲気作りができた。
	プ ロ セ ス	<p>○小部会の打合せ・準備状況 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Zoom開催により、小部会2回(7/28、9/10)、打合せ1回(9/15)。 ・当日に向けて、グループワークの進行方法や画面共有及びブレイクアウトルーム編成等について、具体的に事前確認ができた。 <p>○小部会のメンバーそれぞれの役割を遂行できたか →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当した役割は遂行できた。 <p>○ねらった参加者の参加 →「×」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どのような人に参加してもらいたいか」を事前に話し合っていないかった。

	<p>○参加者数 →「△」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員100名としたが、参加は42名だった。 ・勤務市町別では、深川市23名(54. 8%)、妹背牛町8名(19%)、秩父別町2名(4. 8%)、北竜町7名(16. 6%)、沼田町2名(4. 8%)と、深川市内が約半数を占めていた。 ・委員等別では、協議会委員等が15名(35. 7%)、小部会委員10名(23. 8%)、委員等以外17名(40. 5%)と、委員等の関係者が59. 5%を占めていた。 ・参加者のほとんどが、職場からパソコンまたはタブレットを使用して参加した。 ・同じ職場から複数名の参加があった。(妹背牛町定岡歯科医院5名と北竜町社会福祉協議会6名) ・アンケートから、40歳～50歳代の出席が69. 5%を占めた。また、今回初めて参加したのは27. 8%だった。 <p>○職種 →「△」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な職種の参加があった。 ・深川市立病院病棟看護師の出席がなかった。 <p>○参加者の満足度 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートから、楽しさ、有意義さ、役立ち共に満足度が高く、「楽しくいろいろな方と話げできた」「普段から薬のことで気になっていたことが共有できた」という記載もあったが、「緊張もあり、タイムラグもあり発言のタイミングが難しかった」「恐縮してあまり話せなかった」という記載もあった。 また、今後も参加したいかについては、「参加したい」が86. 1%だった。 ・オンライン研修は、「便利でよい」が58. 3%だが、「便利で良いが、早く集合形式の研修会が開けると良い」「コロナが流行しているので安心ですが、直接会った方が交流しやすい」という感想もあった。 また「操作が難しい」が5. 5%、「馴染めない」11. 1%という感想もあった。 <p>○交流の場を手伝ってくれる人の確保ができたか →「×」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問への回答はなかった。
まとめ	<p>○多職種連携をする上で、まずは顔の見える関係性の構築がとても重要であり、このケア・カフェはそれを実現するとてもよいツールであるとする。</p> <p>少しでも多くの人に参加し「顔の見える関係」になれることを期待したい。</p> <p>○オンラインでのケアカフェは、他グループの様子や全体の雰囲気はわかりにくいことから、全体会で話題を共有し合うことや、アンケート結果から判断することが必要と思われた。</p> <p>○オンライン研修は、便利ではあるものの、慣れないと利用しにくいものであること、また端末や通信環境の問題から参加しにくいことも考えられる。</p> <p>「集合形式で開催できると良い」という意見が散見されるが、当面は集合形式での開催は難しい状況。オンラインでも参加者の満足度は高いため、今後もオンライン研修を開催するとともに、20歳～30歳代や委員等以外の参加者が増えるような周知が必要と考える。</p>